〔Ⅰ〕 次の(A)〜(D)の各文の(　1　)〜(　20　)について，{(ア)〜(ウ)}の中から最も適当な語句を選び，その記号をマークしなさい。

(A) 仏教が社会に浸透するにともない，その世界を絵画などで表現することも行われるようになった。

7世紀前半の作品で，(　1　){(ア) 広隆寺 (イ) 中宮寺 (ウ) 法隆寺}に現存する『天寿国繡帳』は，厩戸王の死後，妃の橘大郎女が厩戸王をしのんでつくらせたものである。

7世紀後半以降，天武天皇が皇后の病気平癒を発願して建立した(　2　){(ア) 四天王寺 (イ) 大官大寺 (ウ) 薬師寺}が建立されるなど，鎮護国家思想のもと，国家による仏教興隆政策がとられた。(　2　)に現存する『(　3　)』{(ア) 吉祥天像 (イ) 鳥毛立女屏風 (ウ) 過去現在絵因果経}は，除災招福の法会のために8世紀後半に描かれたものと考えられている。

平安時代初期に空海が唐からもたらした真言密教は，加持祈禱による現世利益を説き，貴族層に支持された。密教の流行を背景に，(　4　){(ア) 不動明王 (イ) 大日如来 (ウ) 釈迦如来}を中心とする仏の世界を構図化した曼荼羅が描かれるなど，神秘的な密教美術が生み出されていった。

平安時代中期になると，阿弥陀如来の極楽浄土へ往生を願う浄土教が広まり，藤原頼通が11世紀半ばに(　5　){(ア) 法勝寺 (イ) 法成寺 (ウ) 平等院}を創建し本堂に阿弥陀如来を安置するなど，中央の貴族により阿弥陀堂が建立された。(　5　)の本堂の扉絵には，阿弥陀如来の救済の有り様を描いた来迎図や日本風の風景が大和絵により描かれている。

(B) 鎌倉時代には写実的な絵画が多く描かれた。禅宗では，弟子が師の肖像画である(　6　){(ア) 大首絵 (イ) 似絵 (ウ) 頂相}を崇拝する風習が広まった。また，『(　7　)』{(ア) 一遍上人絵伝 (イ) 法然上人絵伝 (ウ) 信貴山縁起絵巻}には，備前国の福岡市の様子が描かれている。

室町時代，幕府の保護をうけた五山派寺院を中心に中国の影響をうけた禅宗文化が展開した。中国からもたらされた水墨画の分野では，北山文化期

には『(　8　)』{(ア)　瓢鮎図　(イ)　四季山水図　(ウ)　寒山拾得図}で有名な如拙らが相国寺など五山寺院から出た。室町時代後期，禅の簡素さを基調とした独自の文化が展開するなか，水墨画では，東山文化期に(　9　){(ア)　宗祇　(イ)　明兆　(ウ)　雪舟}が出て禅画の制約をこえた日本的な水墨画を描いた。また，(　10　){(ア)　狩野正信　(イ)　狩野永徳　(ウ)　狩野探幽}が，子の元信とともに，水墨画に大和絵の技法を取り入れた狩野派の画風を確立した。

(C)　安土桃山時代，京都の町衆のなかから優れた美術家が現れた。(　11　){(ア)　長谷川等伯　(イ)　海北友松　(ウ)　久隅守景}は，はじめ法華宗関係の仏画を描いていたが，やがて『智積院襖絵』や『松林図屏風』を描くようになった。

江戸時代初期には，町衆の俵屋宗達が『(　12　)』{(ア)　紅白梅図屏風　(イ)　風神雷神図屏風　(ウ)　燕子花図屏風}など，躍動感あふれる装飾画を描いた。宗達と親交のあった(　13　){(ア)　野々村仁清　(イ)　尾形乾山　(ウ)　本阿弥光悦}は，洛北鷹ヶ峰に芸術村を開き，蒔絵・書道・陶芸にも優れた作品を残した。

江戸時代後期，(　14　){(ア)　鈴木春信　(イ)　菱川師宣　(ウ)　蔦屋重三郎}が錦絵とよばれる多色刷りの浮世絵版画を創始したことなどを背景に浮世絵が隆盛し，喜多川歌麿の美人画や，東洲斎写楽の役者絵・相撲絵，葛飾北斎・歌川広重らの風景画が庶民の人気を得た。一方，京都では『雪松図屏風』を描いた(　15　){(ア)　池大雅　(イ)　円山応挙　(ウ)　司馬江漢}にはじまる一派が洋画の遠近法を取り入れた写生画の様式を確立した。(　15　)の一派から出て文人画の技法などを取り入れた松村月溪（呉春）は，(　16　){(ア)　住吉派　(イ)　土佐派　(ウ)　四条派}とよばれる一派を開いた。

(D)　明治時代初期，イギリス人画家のワーグマンに師事した(　17　){(ア)　狩野芳崖　(イ)　高橋由一　(ウ)　黒田清輝}は，日常生活や風景などを題材と

して『鮭』などの写実的な西洋画を描いた。

明治時代中期，伝統文化を見直す動きが強まるなか，1887年に岡倉天心らが東京美術学校を創設した。その後，同校を去った岡倉は（　18　）｛(ア)　日本美術院　(イ)　明治美術会　(ウ)　白馬会｝を結成した。（　18　）は岡倉の死後に不振となったものの，大正期には『（　19　）』｛(ア)　大原御幸　(イ)　生々流転　(ウ)　海の幸｝を描いた横山大観らによって再興された。

大正期，洋画界ではヨーロッパの後期印象派の影響をうけた若手らが，1914年に官製の文展（文部省美術展覧会）のアカデミズムに対抗する在野団体として二科会を結成した。さらに，1922年には春陽会が設立され，その客員となった（　20　）｛(ア)　菱田春草　(イ)　梅原龍三郎　(ウ)　岸田劉生｝は，一連の『麗子像』を描いて独特の画風を確立した。